

安全保障テーマにロールプレー

ポリ・ミリ

ゲームで学ぶ外交

世界の国々の関係などを演じて外交について学ぶロールプレーゲーム「ポリティカル・ミリタリー・ゲーム」(ポリ・ミリ)」。米国の政府機関や大学でも大学などを中心に導入する研究者が増えている。一般の社会人を対象に実施する研究機関も現れており、専門家は「外交を効果的に勉強できるため、日本でも普及が進むだろう」とみている。(池田証志)

■実在の閣僚演じ

米国の有力シンクタンク「RAND研究所」が開発したとされるポリ・ミリ。参加者が国家の閣僚を演じて外交課題を解決することで、外交や危機管理の手法を習得するのが狙いだ。米国などでは、大学や各種研究機関などで普及しているが、日本では国連会議のシミュレーションを行う「模擬国連」のように、国際的な決議を出すまでの外交を行うのが主流。

ポリ・ミリは、軍事的な観点も盛り込み、主に安全保障をテーマとした外交を実践するのが特徴だ。すでに、拓殖大などの一部の大学や研究機関で導入が進んでいる。

日露関係を調査する特定非営利活動法人「ユーラシア21研究所」(東京)でも昨年、日本財団の協力を得てポリ・ミリを実施している。

同研究所のゲームでは、国ごとにテーブルに陣取り20分間の閣議で国の方針を決定▽次の20

所」(東京)でも昨年、日本財団の協力を得てポリ・ミリを実施している。

■「各国」が丁々発止

分間で他国のテーブルに向いて交渉し国益の保護・拡大を図るというサイクルを繰り返していく。

今年9月に静岡県内の研修施設で開催され、大学院生や官僚、団体職員など約30人が参加。5人1組で6カ国(日本、米国、韓国、中国、ロシア、北朝鮮)に分かれ、それぞれ実在



特定非営利活動法人「ユーラシア21研究所」が開催した「ポリティカル・ミリタリー・ゲーム(ポリ・ミリ)」を行う参加者ら
静岡県伊東市

の閣僚を演じた。

「北朝鮮の後継者として三男が実権を掌握。弾道ミサイルを積んだコンテナ船が日本海に出没」。同研究所の事務局が朝鮮半島危機が高まったという想定を提示し、ゲームがスタート。

「北朝鮮に特使を送るべきだ」「核の傘を提供しよう」。

緊迫した空気に包まれた会場で、各国の丁々発止のやりとりが続く。日米は「あらゆる手段で事態の悪化に対処する」との共同声明を発表し、各国を牽制。一方、中国は亡命した別の人物を後継者と認め、対立した。

しかし、事務局から「イスラエルがイランのウラン濃縮施設を攻撃」「北朝鮮難民が中朝国境へ」と新たな情勢が設定されたことで、米中の動きが鈍化。そこに、ロシアが北朝鮮にミサイル防衛システムを提供する見返りにコンテナ船を撤収させる約束を取り付け、一気に事態を収拾。ロシアチーム優勢でゲームが終わった。

■企業にも普及?

「変化する情勢の意味を理解すること、自国の意思を他国に伝えるのが難しかった」と感想を話すのは、露大統領を演じた東大大学院生(25)。また同志社大大学院生(24)は「日本の行動に制限があることがよく分かった」。

運営にあたった国際政治アナリスト、菅原出氏は「各国の国益の違いを体感できるポリ・ミリで、効果的に国際情勢を勉強できる。今後、日本でも大学だけでなく、企業などにも普及するだろう」と話した。